

## コミュニティシネマが広げる環

### ～商店街の軌跡と会津美里町高田地区に眠る劇場の再活用提案～

A2201512 小林 純

#### 研究の背景

会津地域には、2012年の会津東宝劇場の閉館を最後に、ひとつも劇場がない状況である。会津美里町にもかつては2つの劇場があり、大勢の観客を魅了していたが、今は空き店舗と化している。

テレビ等のメディアが人々の身近な娯楽となったことで、映画館は顧客を大きく失い、また近年、商店街への人の出入りも減少し、まちの活気は失われてしまった。何より商店と住民のコミュニティの機会が失われてしまったことが大きいと考える。

商店街で生活する人々を映像に収め、かつて賑わいをもたらした劇場で上映をすることで、当時を知る商店街の高齢者や若い人々がこれをきっかけにしてコミュニティを深め、地域のこれからについて考える機会となれば、まちおこしの起爆剤となるのではないだろうか。

#### 研究の目的

20年前まで会津美里町高田地区には活気あふれる商店街が軒を連ね、様々な行事で人々を魅了してきた。劇場での上映会や演劇も後押しし、かつて街は良いコミュニティを築いていた。しかし地域の若者や経済の流出は全国的な社会問題となっており、ここ会津美里町高田地区も例外ではない。

本研究では、高田地区で空き家となっている劇場での映画上映会を企画・運営する。商店街の今昔をピックアップした映像を制作・上映することで、商店街としての一体感を感じてもらいながら、人と人を繋ぐコミュニティ形成の機会と、商店街の今後を考えてもらうきっかけづくりを目的とする。

#### 研究のプロセス



#### ■企画・協力依頼

現在の劇場の持ち主にお話し、劇場内を案内して頂いた。また、劇場での上映会にも承諾して頂き、今回の企画が実現した。

#### ■商店街撮影協力依頼

15回以上にわたる訪問を重ね、商店街の方々に取材・撮影協力をお願いした。商店街はみな温かく迎えて頂き、取材先まで紹介して頂いた。誰もが栄えていた時代を懐かしみながら、これからの商店街に不安を感じていた。



Figure 1 劇場の持ち主・江川さんへのヒアリングの様子

## 成果品(完成作品)

### ■商店街と劇場を中心とした映像作品

商店街の方々に協力をお願いし、劇場が運営していた当時の様子をカメラ取材した。活動を通し、現在と当時を比較してもらうことで、今を見つめ直す機会とした。数年前まで開催されていた七夕イベントなどをまた行いたいという声も聞くことができた。また商店主が別の方を紹介してくれることも多く、上映会と合わせて商店街の方々同士のコミュニケーションを促すことができた。



Figure 2 千葉荒物店店主への取材の様子

### ■劇場を利用した上映会と展示

当時のまま残る劇場をお借りし、制作した映像作品を商店主の方々や近隣住民に鑑賞して頂く。数十年立ち入ることがなかった商店主や住民は懐かしみ、告知の際から感嘆の声を漏らしてくれた。また取材時にお借りした写真を活用し、展示スペースを設けることで、より当時を意識し、写真を提供してくれた方にとっても、やりがいを感じてもらうことができた。



Figure 3 再建当時の新富座



Figure 4 再建前の信富座、  
劇場内の様子



Figure 5 昭和30年代の高田商店街

### ■ベンチ

劇場内にあった客席は全て撤去されていたため、上映会にて使用するベンチを製作した。上映会後は商店街の通りに設置するため、ベンチの脚に座部を固定しないことで、分解し持ち運びやすくしている。雨風を凌ぐため重厚感のある構造とし、長く使用してもらうことを意図した。



Figure 6、7 制作したベンチと、  
分解の様子

## 考察

現地での取材訪問を通し、決して商店街の良さが損なわれたわけではないと感じた。「饒舌の経済」から離れつつある現在、高田商店街のように誰でも受け入れ、モノを提供すること以上のサービスを展開していることは、街にとって最大のコミュニティ形成にもなると考えられる。

買い物客の減少だけでなく、後継者不足も今後の課題ではあるが、今回の活動を通し、商店街が今後どうあるべきかという意識や危機感を感じてもらえたと思う。

可能な限り、今後も由緒ある高田商店街を支援していきたいと思う。